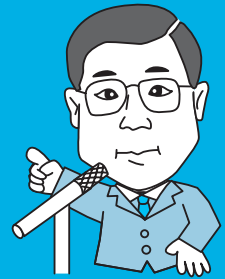


市長の まちづくりメッセージ

市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。



「あらゆるケースを想定し、万難を排して対処すること」について

先の6月議会定例会において損害賠償の額を定め、和解を行うことについて2件の議案を提案し、可決をいただきました。1件は昨年11月に大和総合運動公園で開催した「ひかりふるさとまつり」においての突風によるテント3張の転倒事故、もう1件は平成16年6月に国道188号での学校給食センターの給食配達車による交通事故でした。

これまで、イベント開催時において会場設営はもとより、気象情報等あらゆるケースを想定し、万全の体制で臨むよう、指示や注意をしてきたところです。

多くの方々が参加・来場されるイベント等については、まず来場者の「安全」を最優先しなければなりません。祭りに参加される方々の期待や準備への努力などを考えると、主催する側としては天候不順でも何とか開催しなければと判断しがちですが、事故が発生

した場合には今回のように国家賠償法等により責任を免れることはできません。

今年も夏から秋にかけて、多くのイベントを開催しますが、私たちはこうした事故を二度と起こさないことを肝に銘じ、危機管理について入念な打ち合わせをするともに、「安全第一」で、責任と自覚を持って、総合的な判断のもと、実施するよう努めてください。

物事の結果には必ずそれに至る過程があります。その過程に現れる兆候を見逃すことなく、また、起こり得るあらゆるケースを想定して、万難を排して態勢を整えること。

ぜひとも、このことを心掛けてください。

「何もしないこと」について

平成18年3月、光市では自然を敬い、愛する心をもって自然環境保護に努めるため、全国初の「自然敬愛都市宣言」を行い、本年3月には「自然・地域・地球を愛する」を基本方針に

定めた環境基本計画を策定し、光市独自のさまざまな施策を展開しています。

ごみ問題については、昨年10月、本市のごみの分別方法が変更となり、2月にリサイクルセンター「えこぱーく」が完成し、4月から本格稼働しているところです。ごみの減量を推進し、ごみ問題への理解を深めていただくため、市では市民の皆さんを対象の、「ごみの行方」見学ツアーの企画や、「もつたない文化推進プロジェクト」の第一弾として、ふるしき講座を市民ホールで開催するなどしています。



ふるしき講座

こうした新たな取り組みを推進する一方で、今月13日には、毎年2万人の市民の方々が参加される、恒例の「クリーン光大作戦」が行われました。また、先の6月議会において、「クールアース・デー」（地球温暖化防止の日）の創設等を求める意見書が可決されましたが、議会や市民の皆さんと「共創・協働」で、市を挙げて環境問題に取り組むことが大切です。

「何もしないことこそが、環境問題においては一番の損失」。

最近、私が聞いて心に残った言葉です。これまでは「何もしない」ことはプラスでもマイナスでもないとの考えが主流となっていました。が、「何もしない」ことはマイナスにつながるという、私たちの既存の価値観に警鐘を鳴らす言葉です。これは環境問題に限らず、行政全体にも通じることではないでしょうか。職員の方々が常に今何をすべきか、何が必要とされているのかを考え、真剣に職務に取り組んでください。